

## 「間一髪！！異臭の原因は…」

福井支店 三田村 信弘

それは、私が保安技師になりたての頃の話です。寒さも増してきた初冬、あるお客さまの月次点検に伺い連絡責任者の方に挨拶をしたところ、「2階にある照明の具合が悪い、リモコンスイッチが原因かもしれない。分電盤内に予備品があるので交換してほしい。」との要望を受けました。

2階にある分電盤の扉を開けて確認作業を始めると、ほんの一瞬何かが焦げるような異臭を感じました。その場所は、普段から臭いがするような場所ではなく、周囲を見渡しても石油ストーブのような火気もありません。また、分電盤内部の電線やリモコンスイッチを確認しても焼損しているような個所は見当たりません。

「気のせいかな？」と思いながらも作業を続けていると、今度はゴムが焦げたような臭いを感じました。冷静にもう一度周囲を確認したところ、近くの作業台の下にコードを巻いたままの電工ドラムが置かれており、そこから2台の電気ストーブが使用されているを見つけました。

「これだ！」早速、従業員の方に事情を説明して電気ストーブの電源を切り、電工ドラムのコードを引き出してみると、瞬く間に煙がたちこめました。このまま使用を続けていたら電線間で短絡（ショート）し、火災になっていたかもしれません。まさに「間一髪」でした。

一般的な電工ドラムは、コードを引き出した状態なら定格15Aまで使用できますが、コードを巻いたままの状態では5Aまでしか使用できません。異臭の原因は、コードを巻いたまま電気ストーブ（9A×2台）を使用したため定格電流（この場合5A）を超え、コードが過熱し被覆が溶けたことによるものでした。

その場でお客さまに、「電工ドラムはコードを引き出した状態で使用する」「電気ストーブのような容量の大きい機器は違う回路から使用する」ことを説明したところ、「このような注意点について全く知らなかった。事故を未然に防いでくれて助かった。」と感謝の言葉をいただきました。

あれから20余年が経ち私もベテランと呼ばれるような立場になりました。今でもこの新人時代の経験を忘れず、五感を研ぎ澄ませ周囲をよく確認した点検を心がけております。今後もお客さまの電気設備の安全に貢献できるよう努めてまいります。

